

認知症について

認知とは

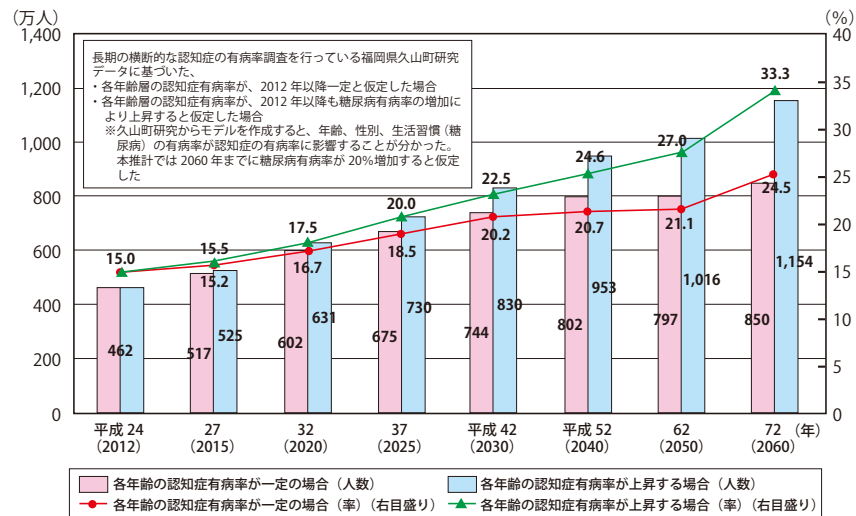
理解・判断などの知的機能のことです。

この本では、認知症で障害が起こる脳の高次の機能(記憶・判断・計算・理解など)を指します。

認知症とは

今まで出来ていた日常生活や社会生活が、脳の障害によって持続的に低下し、支障をきたすようになった状態を指します。

記憶力や判断力の低下に加え、脳の画像によって診断されるもので、単なる物忘れとは異なります。



資料：「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」(平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学二宮教授より内閣府作成)
出典：平成29年度版高齢社会白書(概要版)

2012年において、日本では462万人の認知症の人がいます。
(有病率15%)。
その数は増加すると予測されています。

代表的な認知症の種類と特徴

①アルツハイマー型認知症(約50%)

脳の広範囲にアミロイドβ(ベータ)やタウという特殊なタンパク質が溜まり、脳の神経細胞が壊れて減ってしまうために起こります。徐々に進行し、脳全体が萎縮していくため、体の機能も失われていきます。

初期：新しいことが覚えられなくなる、同じことを繰り返し聞く、など。

中期：体験そのものを忘れてしまう。食事をしたことそのものを忘れてしまうので、食べた後でも「食事はまだ?」と尋ねたりする。

後期：昔のことや、身についた動作、言葉の意味も忘れてしまう。

②脳血管性認知症(約20%)

ある分野のことはしっかりできるのに他のことでは何もできない、突然症状が出現したり変動したりすることがしばしばみられる、などさまざまな症状がみられるのが特徴である。

③レビー小体型認知症(約20%)

「知らない人がいる」といった実際には見えないものが生々しく見える、動作が遅くなり転びやすくなるパーキンソン症状、などがみられ進行が早いのが特徴である。

④前頭側頭型認知症

身だしなみに無頓着になる、相手に対して遠慮ができない、同じ行動を繰り返す、などがみられ若い年代から発症しやすいのが特徴である。